

八ツ仏石仏

やつほとけせきぶつ



文化財愛護シンボルマーク

名称	八ツ仏石仏	所在地	加古川市平荘町小畑八ツ仏
別称	八ツ仏、八ツ仏石棺仏、八尊石仏	管理者	小畑東町内会
数量	1基	指定	加古川市指定文化財
法量	石棺の地上高153cm、幅117cm、厚37cm	指定分類	彫刻
材質	石造、凝灰岩(竜山石)製	指定名称	八尊石仏（八ツ仏）
時代	南北朝時代、14世紀	指定年月日	平成21年(2009)3月6日



八ツ仏石仏

「ハツ仏」と呼ばれている石棺石仏です。平荘町小畑の小塩池の西、山裾の里道の上に立っています。凝灰岩(竜山石)製の家形石棺の蓋石の内側に8体の仏像などを薄肉彫りしています。

石棺は、古墳時代の家形石棺の蓋石です。蓋石の内側の刳抜いた部分に上下2段左右2列で4体、また、蓋石の内側の左右の各縁部分に上下2段で4体、合わせて8体の尊像を彫り出しています。いずれも舟形の輪郭を彫りくぼめた中に薄肉彫りしており、半月形の蓮華座の上に座る像高17.6cmから25.7cmまでの仏像は、如来形と地蔵菩薩の形をした坐像です。内側上段の2体及び縁部の4体は定印の阿弥陀如来

坐像、内側下段の向かって右の像は右手で宝珠を捧げ、左手に錫杖を持つ地蔵菩薩坐像と考えられ、向かって左の像は胸前に両手を合わせるか、両手で鉢を持つように見える坐像で尊名は不明です。鎌倉時代の石仏と比べると、表現に形式化が進みかけているものの、約500メートル南東の長楽寺墓地に立つ「六尊石仏」とともに、南北朝時代の大型で迫力のある石棺仏として、注目されてきたものです。石棺材に複数の仏像を彫り出したこのような形式の石仏は、加古川地域の特色を示すものでもあり、八尊の仏像が刻まれているこの石仏は、加古川市を代表する石仏として貴重なものです。

(文・写真/宮本)



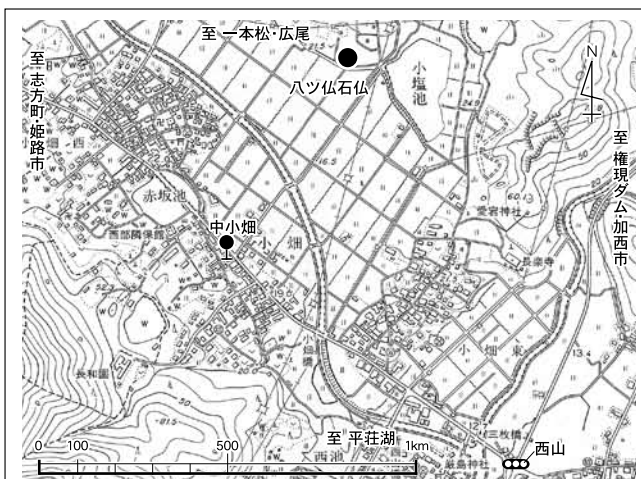
ハツ仏石仏全景

●参考文献

- 『石棺仏』宮下忠吉、木耳社(1980年)
- 『加古川の石棺と石棺仏』大手前女子大学考古学研究室(1983年)
- 『加古川市史 第7巻』加古川市(1986年)
- 『播磨の石棺仏(図録)』小野市立好古館(2001年)
- 「加古川市平荘町の石造美術」藤原良夫(『鹿児』128~135合併号、加古川史学会、1987年)

●キーワード

彫刻、石仏、石棺仏、石棺仏龕、家形石棺の蓋石、ハツ仏



●所在地/加古川市平荘町小畑ハツ仏

- 交通/JR加古川駅発神姫バス「駒の蹄」行「中小畑」バス停から北へ徒歩8分
車は加古川バイパス「加古川ランプ」から北へ6.5km